

稜友

February 2014, No.230



駒津峰からの仙丈ヶ岳 (撮影 中村)

新潟稜友会

Home page http://homepage3.nifty.com/niigata_ryoyu/

巻頭言

2014年は新潟稜友会にとっては発足以来大きな転換点になるようだ。先月の巻頭言にある通り月報を電子配信1本とし、月2回の例会を1回とし、公募体験登山を行うこととした。私個人の感想としては、稜友会誕生の1年後に入会し20年近くが経過、それに伴い各個人を取り巻く環境も大きく変化したようだ。電子配信は必然的な流れであろうと思う。又、昨今の例会状況を顧みると、例会の形態や外部(入会希望者)との接点の持ち方等、時代に叶った形態があるのかもしれない。再び先月の巻頭言を引き合いに出すが、単独登山もいいしグループ登山も楽しみが倍増する。時代、環境が変わろうと自然に浸ろうとする気持ちは不変であり、山を愛する人がいなくなることはないだろう。そのためのも、新規会員との接点となる公募体験山行には大きな期待をしています。私個人としても可能な限り参加するつもりですので、その際はよろしくお願い致します。

(大島 伸幸)

次回の巻頭言は小川さんです。よろしく!

2014年 例会年間予定

例会日	担当	例会内容	備考
1月15日(水)		公募登山の準備	
2月19日(水)		公募登山の準備	
3月19日(水)		事故発生時の対応	
4月16日(水)			
5月21日(水)			
6月18日(水)			
7月16日(水)			
8月20日(水)			
9月17日(水)			
10月15日(水)			
11月19日(水)		総会の議題協議	
12月6、7日(土・日)		6日-忘年会、7日-総会	
12月17日(水)			

2014年 今月のコラム・巻頭言・編集担当者・原稿締切日一覧

月	今月のコラム(*)	巻頭言	編集担当者	原稿締切日
1月	大島	海老名	大島	1/04(土)
2月	海老名	大島	大島	2/08(土)
3月	金子	小川	大島	3/08(土)
4月	佐藤(孝)	小杉	大島	4/05(土)
5月	設楽	鈴木	関川	5/10(土)
6月	杉田	関川	三木	6/07(土)
7月	須藤	橋本(寅)	関川	7/05(土)
8月	中村	肥后(明)	関川	8/09(土)
9月	橋本(聡)	丸山(和)	三木	9/06(土)
10月	橋本(寅)	三木	小川	10/04(土)
11月	丸山(和)	大西	肥后(明)	11/08(土)
12月	大西	金子	大島	12/06(土)

(*) 秘湯、レシピ、こだわりの道具、子育てなどなど、各自自由なテーマで執筆。

2014年公募体験登山が以下のように決まりました。

時期	山行内容	担当	予定候補
3月9日	雪山体験、スノーハイク	金子	川内山塊宝蔵山
4月13日	早春トレッキング	関川	八石山
5月11日	クライミング体験	海老名	杉滝岩
8月31日	沢登り体験	海老名	三国川十字峡
10月19日	紅葉トレッキング	金子	信越トレイル
11月16日	初冠雪トレッキング	金子、海老名	谷川岳天神尾根

稜友会ホームページにも掲載されていますので、内容を確認して下さい。

担当は変更される場合もあります。

山行報告

日程	山域(形態)	メンバー
12/27~30	仙丈ヶ岳(尾根)	中村単独
1/12	中妻山(山スキー)	佐藤(康)

1/26	中妻山(山スキー)	佐藤(康)
2/1	飯綱山(山スキー)	佐藤(康)

仙丈ヶ岳

2013.12.27～30 2万5千円「甲斐駒ヶ岳」「仙丈ヶ岳」

メンバー: 中村(単独)

12/27(金) 曇時々雪 自宅 3:30→8:15 戸台 8:45→9:45 白岩堰堤→12:30 丹溪山荘 12:50→15:30 大平山荘→16:15 北沢峠(長衛荘) 12/28(土) 曇時々雪、小仙丈より上部はガス 北沢峠 7:30→8:45 二合目(2180m鞍部)→10:30 五合目(大滝の頭)→11:30 六合目(森林限界)→12:30 小仙丈→14:00 仙丈ヶ岳→15:30 森林限界→17:30 北沢峠 12/29(日)快晴 のち晴 北沢峠 6:10→6:30 長衛小屋前→8:30 仙水峠→10:45 駒津峰 11:00→11:30 六方石(最終到達点)→12:20 駒津峰→13:20 仙水峠→14:40 北沢峠 12/30(月)快晴 北沢峠 6:40→7:45 丹溪山荘→10:30 戸台

戸台川原の駐車場に先着の車は4台。先行はテント装備の3人パーティーと、単独氏1人。前夜降雪があったらしく新雪の戸台川を行く。途中で4人を追い越す。白岩堰堤で4人に追い付かれたが彼らも休憩するのでまたトップ。くるぶしから、深いところではひざほどのラッセル。藪沢の丸木橋付近まで来ると太ももがピクピクしてつりそうになった。騙し騙し歩いて、丹溪山荘手前で大休止。ここで単独氏が追い付き、ようやくラッセルから開放された。しかし丹溪山荘前からはペースが上がらず、標高差 600mを 3 時間半かけて北沢峠に到着する。今晚の宿となる長衛荘の明かりを見たときはほっとした。

長衛荘では、猪熊隆之さんのヤマテンと契約して仙丈の天気を予報してもらっている。それによると、28 日は寒気が入り風も強そうなので、今日はトレースを付けに途中(大滝の頭あたり)まで登ってみることにし、明るくなってからワカンとアイゼンを持って出発した。全くトレースがないので最初からワカンをつける。ワカンをはいているとテント場から単独の若者がやってきた。ラッセルは深いところでひざ程度だった。ラッセルを交代しながら森林限界まで登り、アイゼンに切り換える。時折雪が舞い、風も強く、一人ならここでやめたと思うが、若者が登る構えを見せているので登ることにする。最終下山時刻を最初 12 時と考えていたが、この時点で13時に延長。森林限界からはアイゼンがよく効いたが、吹溜りに入り込むとひざ

位まで沈むので苦勞する。ガスで見通しは 100m 位しかない。小仙丈で 12 時半となり、13 時に頂上着は無理な状況だ。下山開始を 14 時に延ばす。これでは明るいうちに下山できないが、森林限界より下なら暗くなくても何とかできるのではと考えた。仙丈小屋への分岐を過ぎると頂上は近いが、疲れもピークに達してきている。あそこが頂上、と思ったところが頂上でなかった時は、一瞬ここでやめようと思った。しかしその先に本当の頂上(らしき)ピークが見え、若者が先行しているのを見ると中止の選択肢はなかった。14 時ジャスト仙丈の頂上に立つ。写真を撮ろうとスマホのスイッチを入れたとたん、まさかのバッテリーダウン。ジャケットのポケットに入れておいたので低温になりすぎたのだ。時間も遅いので急いで下山。森林限界でアイゼンを外す。トレースばっちりのはずだったが、風でトレースが消えているところもあり、暗くなったらやばかった。ツボ足ではかなりもぐるので、大滝の頭でワカン装着。2合目で暗くなり、ヘッドンをつける。17 時半長衛荘に着く。

29 日、昨日悪天とはいえ仙丈のピークを踏んだので、今日は甲斐駒を目指すことにする。ただ連日のラッセルで筋肉痛がひどいので行ける所までだ。ヘッドンをつけて長衛小屋(以前の北沢駒仙小屋)に向かう。小屋前のテント場には 20 張くらい。仙水峠への出だしはトレースがなかったのでワカンをつける。しばらく歩くとトレースが現れ、ツボ足でも大丈夫な程になる。何人かが登ってきたがみんなツボ足だ。仙水小屋を過ぎ、樹林帯を抜けると岩のごろごろした、鬼押し出しのような場所に出る。ワカンでは歩きにくいのでアイゼンに履き替える。仙丈の稜線に朝日が映えて美しい。仙水峠からはノートレース。今日もラッセルだ。ワカンなしで深いところは腰までであったが、サラサラで踏みしめても崩れるような雪だったので、ワカンをつけてもそれほど変わらなかったと思う。次第に人が増え 10 人程のラッセルとなった。右側には摩利支天の岩場、振り向けば地蔵のオベリスクの右に富士が大きく見えている。北アルプスから見るとは大きさが違うことを実感。大勢でラッセルしたおかげで仙水峠から駒津峰までの標高差 400m を 2 時間強で登り切る。駒津峰からも絶景だ。向いのアサヨ峰の右には北岳と間ノ岳、少し離れて塩見岳、さらに右に目を転じれば仙丈ヶ岳という 3000m の峰々が一望だ。小休憩の後六方石に向ってやせ尾根を下る。意外と長い。この下りで相当足にきていることがわかる。太ももの筋肉痛で脚を曲げるのがつらい。六方石で 11 時半となったところで、山頂断念を決める。理由は 2 つ。ひとつは頂上着が 13 時を回ってしまいそうで、連日のヘッドンは避けたいこと、もうひとつは何よりも、脚を曲げるのがつらい状況下アイゼンで岩場を下るのが危険と思われたことだ。駒津峰までの登り返しもつらかった。この状態では山頂は無理というものだ。駒津峰でもう一度眺めを楽しんだあと下りにかかる。アイゼンを外し、ゆっくりと北沢峠まで歩く。頂上を踏めなかったのは残念と言えば残念だが、絶景を堪能できたので良ししよう。

30 日今日は下山だけなので、明るくなってから出発する。ラッセルがないので楽だ。丹溪山荘からの川原歩きはほぼ往路の通りだが、白岩堰堤から下は、往路で渡渉点がよく分からなかったなので、ピンクテープに従って右岸沿いにルートを取ってみる。途中まではうまくいっ

たが、へつらなければ突破できない岩壁が現れ断念。川に掛った倒木をまたいで渡渉する。あとはトレースをたどり戸台着。駐車場の車は 50 台以上に増えていた。帰路、仙流荘で汗を流す(600 円)。

(中村 政道)

中妻山(山スキー)

2014/1/12 天候 快晴

25000 分の 1「高妻山」

メンバー 佐藤(康)

戸隠大橋 8:30～梯子尾根～中妻山 14:00～佐渡山のコル 15:30～戸隠大橋 16:00

自宅の大雪の処理で出発が遅れ、戸隠大橋 8:30 出発となった。途中、『乙妻までいくの?』と先行者あきれながらトレースをたどる。梯子尾根のとおりつきまではトレースがついており快調だったが、それから中妻まではトレースもなく独り旅。去年は偶然、T 田さんにお会いしたが、今年は本当に孤独なラッセル作業。なんとか 14:00 には中妻につき、ととっと下って帰った。ラッセル作業に見合う大斜面独占 & パウダー三昧でした。

(佐藤 康彦)

中妻山(山スキー)

2014/1/26 天候 雪

25000 分の 1「高妻山」

メンバー 佐藤(康)

戸隠大橋 7:30～梯子尾根～中妻山 2100m13:00～佐渡山のコル 15:30～戸隠大橋 16:00

ニューブーツの感触を試すため、今週も中妻山。
こんな天気の日には誰も入るはずも無く。
梯子尾根 2100mでタイムアップで下山したが、まさかの下りラッセル。
ニューブーツの真価はわからずじまいでした。

(佐藤 康彦)

飯綱山(山スキー)

2014/2/1 天候 晴れ

25000 分の 1「戸隠」

メンバー: 佐藤(康)

戸隠スキー場トップ(瑠山)9:30～飯綱山 10:40～飯綱山神社～戸隠スキー場(中社ゲレンデ)～駐車場 13:00

ゲレンデトップ瑠山より、飯綱山を經由し軽い山スキーをしてきました。小学校以来の飯綱山でしたが、飯綱山(ダイダラボッチが腰掛けた山)から大座法師池(ダイダラボッチの足跡)を眺めてノスタルジックに浸ってきました。いい山で、カンジキ、スノーシューの人は多数いましたが、山スキーヤーは皆無。山スキー向きの山ではないですね。

(佐藤 康彦)

今月のコラム

クライミングを始めて15年。いまさらではあるが今シーズンからアイスクライミングを始めてみた。寒さに弱い体質なので氷は敬遠して来たのだが、やってみるとこれが本当に楽しい！近年、ゲレンデもルートも新たに開拓もされており近隣の群馬などにも増えているようです。しかし、越後の溪はどこも冬は雪で覆われており氷瀑があってもそこに行くのが不可能に近い状況なのが残念。冬の楽しみがひとつ増えて嬉しいです！

(海老名 誠)

● 会費について

☆会員 年会費9,000円(夫婦会員は2人で16,000)
保険料 5,000円～ 月割可(詳細は金子まで)

☆会報会員 年会費1,000円(月報の電子配信会員)

- ・ 1月末までに下記講座への振込をお願いいたします。
郵便局 記号: 11220 番号: 23683431 口座名: 新潟稜友会
- ・ 不明な点は丸山亮子まで

●会員だけの掲示板が出来ました

山行計画、下山報告、住所変更、アドレス変更などに利用してください。
会のホームページの掲示板ページからもログインできるようになっています。
会員専用掲示板は一般公開されません。
公開してもかまわない記事は今まで同様掲示板に投稿してください。

アドレス : <http://8421.teacup.com/msudou/bbs>

携帯電話(iモードなど)からも閲覧、書込み可能です。

ID・パスワードは、知っている会員から聞いてください。

●万代市民会館集会室利用方法

最初に来館した人は、4階ロッカー室の稜友会の棚から、当日の日付が書いてある利用許可書1枚を持って1階受付に提出し、必要事項に記入の上、部屋のカギを受け取って会場に入ってください。

●必ず守ってください

山行計画書、下山報告共に

金子・海老名

まで、FAX・メール・携帯電話等で連絡の事

次回原稿締め切り 3月8日(土) 担当:大島 まで

●原稿形式

形態を () で

日付は全角、西暦で

地図・地区もなるべくつけてください

鳥海山湯ノ台口(山スキー)

2000年6月3日(土)～4日(日) 2万5千円「湯ノ台」「鳥海山」

メンバー L.

3日 7:00 湯ノ台口 10:00 滝ノ沢小屋 …横書きで

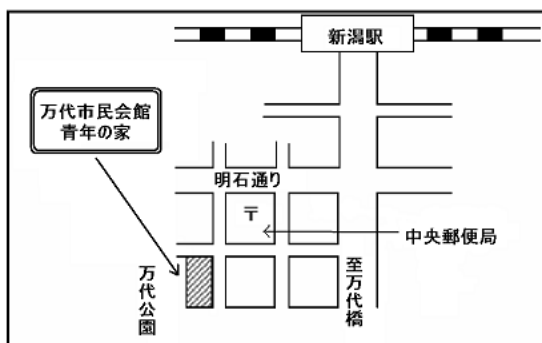
本文

(橋本寅信)…カッコでフルネーム

★表紙に写真を載せて欲しい人は月報担当者にネガ(または写真)を送るか、電子データとしてメールで送って下さい。表紙以外で写真を載せて欲しい人は担当者に渡して下さい。テキスト形式が基本ですが、ワードで原稿を送ってもOKです。FDの場合は、プリントアウトしたものを同封して下さい。

新入会員募集中！

毎月第3水曜日pm7:30～万代市民会館4階の「青年の家」にて集会を開催しています。気楽に顔を出して下さい。詳しくは、TEL 025-223-0393 金子恒夫



[編集後記]

一度は流氷を観ようと、雪祭り期間の2/6～9まで北海道に行きました。札幌～紋別の往復は結構大変でした(ツアーバスでしたが)。残念ながら流氷は接岸しておらず、流氷の子供？だけ観てきました。オジロワシが1羽だけ湾内の街灯に留まっていました。週末の大雪で飛行場は大混雑、増築して広くなった新千歳空港は足の踏み場もない状態でしたが、1時間遅れで出発出来、無事新潟に戻ることが出来ました。(大島)



月報「稜友」February, 2014 No.230 2014年2月19日発行

発行者 新潟稜友会 代表 金子恒夫

〒951-8081 新潟市寄附町 5006 Tel 025-223-0393

